

「訪問診療でおこなう摂食嚥下リハビリテーションの基本～評価と対応～」



飯田 貴俊

歯科医師 歯学博士

所属：神奈川歯科大学 全身管理医歯学講座全身管理高齢者歯科学分野

役職：講師，医局長，訪問診療・摂食嚥下リハビリテーション担当医

日本社会の高齢化は世界に類を見ない速度で進行している。すでに高齢化率が25%を超え4人に1人以上が高齢者という時代となった。それに伴い歯科医療のありかたも変化し、歯牙の欠損補綴や歯および歯周組織の疾病治療中心の歯科医療から、口腔全体の機能、さらには食べることで全体を見据えたアプローチの必要性が叫ばれるようになった。口腔ケア、摂食嚥下リハビリテーション（以下摂食嚥下リハ）といった領域は社会のニーズが高い分野であり、担い手の育成が急務である。神奈川歯科大学では、平成27年12月に『全身管理高齢者歯科』を新設し、高齢者の摂食嚥下リハビリテーションの教育・研究・臨床を担当し、患者の治療を実際におこないながら、学生教育はもちろん、すでに有資格者である歯科医師や歯科衛生士に対しても、知識・技術の拡散を積極的におこなっている。摂食嚥下リハビリテーションは、もともと発達期の障害児や頭頸部腫瘍後患者の摂食機能障害への対応からはじまり、その後脳卒中患者を中心とした高齢患者へ応用され発達した領域であるが、現在はそのほか認知症、神経筋疾患（パーキンソン病、筋委縮性側索硬化症；ALSなど）、加齢による虚弱（フレイルティ）など対象患者のバリエーションは多岐にわたる。上記にあげた患者らは摂食嚥下障害だけでなく歩行障害をはじめとしたADL（日常生活動作）低下をきたしている場合が多く、歯科医院へ通院することが困難であることから、訪問診療における摂食嚥下リハビリテーションが近年歯科医師によっておこなわれるようになった。摂食嚥下障害の精密検査である嚥下内視鏡検査（Videoendoscopic swallowing study: VE）はベッドサイドでおこなうことが可能であり、訪問診療では特に有用な検査である。

本講演では、摂食嚥下障害とはどんな状態か、またそれに対する摂食嚥下リハビリテーションを訪問診療下でどのように評価・対応おこなうのか等について、実際の検査画像とともに具体例をあげてその全体像をお話する。

- 略歴：2008年 日本大学歯学部卒業
- 2009年 日本大学大学院歯学研究科摂食機能療法学講座 入局
- 2010年 藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学Ⅰ講座 留学
- 2012年 Johns Hopkins University, Department of Physical Medicine and Rehabilitation, School of Medicine, (Baltimore, U. S. A.) 留学
- 2014年 日本大学歯学部摂食機能療法学講座 専修医
- 2015年 神奈川歯科大学附属病院 高齢者歯科外来 診療科講師
神奈川歯科大学大学院歯学研究科 全身管理医歯学講座
全身管理高齢者歯科学分野 診療科講師
- 2016年 神奈川歯科大学大学院歯学研究科 全身管理医歯学講座
全身管理高齢者歯科学分野 講師